

◆日程 2016年11月5日(土)

◆メンバー L：小林、前田、富田、小山田

11月の机上講習②で話した事を実践する場所として大谷ヶ丸を選んだ。登りは取り付き点さえ間違えなければ良い。下りは尾根が分岐するので誤った尾根に踏み込む可能性を避けるルート取りが必要になってくる。それには現在位置の特定が必要不可欠である。

甲斐大和駅は上日川峠行きのバスに乗車する人でごった返していた。我々はそれとは無関係に歩き出す。景德院を過ぎ、



曲り沢が横切る。この合流点が面白い地形で少し迷う。林道に入り 800m 程の支尾根を使い大谷ヶ丸西尾根に取り付く事にした。取付き点で、私の山行では順番は決めない、但しパーティなので 4 人とも常に判断をする、それを相手に伝え相互理解する事、何が危険かを考えその時は立ち止まる事、等をお願いした。日常の環境や制約から抜け出て、山に来ているから自分の可能範囲内で自由に山を楽しむ事が大切だと思う。

支尾根の方向を確認し大谷ヶ丸西尾根を目指す。250m 程の急登をこなし尾根に出て休む。カラっとした天気であまり気持ちがいい。ここからアップダウンの繰り返して山頂を目指す。途中、特大 熊の糞が鎮座していた。尾根上のルートははっきりしており全く心配ない。麻生山 1370m から 300m 弱の急登はきつい。皆、頑張って大谷ヶ丸北峰に到着、三角点のある山頂を踏み北峰に戻り昼食とした。

下山は北西に派生する尾根を使う。慎重に地図、地形を照合して下りないと予期しない所に出てしまう。途中 1600m の急な下りや 1400m の尾根分岐を確認しながら、最後の迷い易い 1210m 分岐で痕跡の濃い左側の尾根に入ってしまったので呼び止めた。このような場所は濃い痕跡があっても忠実に尾根を辿り尾根分岐を確認する事が重要と話した。

予定の尾根に入り 1 時間半で無事に林道に出た。昼食をとった山頂を見ながらのお休みタイム、記念撮影をして甲斐大和駅に歩き今回の山行が終了した。電車の時間に間があり駅前反省会をしてお腹も心も充実した気分になって帰宅した。

自分達の判断で歩く山は楽しい。道標頼りの只ゾロゾロ歩きでなく、地図と地形を判断し多少のリスクを追って、最後は安全に下山するから充実感があるのだと思う。

(耳より情報) 下山後の食事お勧め 駅前 雅 (みやび)

店の雰囲気良い、牡蠣フライも大きい、リーズナブルな価格でお勧めです

CT:甲斐大和駅8:20—支尾根取付き9:25—1120m尾根合流10:00/10:10—1350m  
麻生山 11:10—大谷ヶ丸三角点 12:35—北のピーク昼食 12:45/13:20—林  
道 14:55/15:10—甲斐大和駅 16:50 (記:小林)

参加者のコメントです。

<前田>

今回、読図山行としては初の参加。地図とコンパスを頼りに道なき山を進む。当然、整備されていないので、荒れた場所を進むこともあります。それがまた楽しい。周辺の状況を常に把握し、地図上で自分がどこにいるのか、そして進むべき方向は合っているのか。先行させていただき自分で考えて進む。普段GPSで位置確認をしているが、今回は封印しました。地図を読む楽しさと、思い通りに進めた達成感は登山をより楽しむことができます。休日なのに他の登山者がいないのも最高。途中、熊!?!のフンらしき物体も発見しドキドキさせられましたが、大変勉強になるとともに、楽しい山行でした。

<冨田>

●まず景德院近辺より沢などを確認しながら登り始めた。現在位置を特定し行きたい方向へコンパスを合わせる。地形図での事前準備が大切だと思いました。

●大谷ヶ丸からの帰路は、尾根と谷の等高線が複雑で少し迷った。川や送電線遠くの山などを参考にすることも良いと感じた。

●前半は足場の悪い急勾配が続いていたが自分が先頭に立つと自然とペースが早くなる癖があり、メンバーのペースを乱してしまった。先頭に行く際は周りのペース配分を考慮することが大切だと思いました。

<小山田>

やはり地図読みは回数こなさないと、身につかない、ということを痛感しました。地図上で目星をつけて、特徴的だと思っていた場所が、実際行ってみると思っていた様子と違う、ということだらけで、経験がすべてだな、と感じました。

